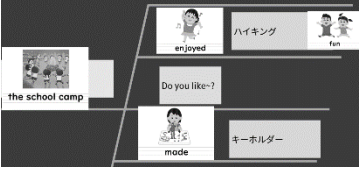


学年	教科等	単元名	日時
第6学年	外国語科	I enjoyed school.小学校の思い出	令和6年2月9日(金)

## 1 本時の目標

最も心に残る小学校の思い出がより相手に伝わるように、思い出の行事や出来事、経験したこと、感想等の自分の思いや考えを話すことができる。

## 2 指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て
<p>1 前時のふりかえりから、本時のゴールイメージをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時のふりかえり</li> <li>○ 本時のめあて</li> </ul> <p>心に残る小学校の思い出がもっと相手に伝わるように、スピーチの内容や表現を工夫して伝え合おう。</p> <p>2 スモールトークやペアトーク等で、スピーチに生かせそうな表現を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ スモールトーク</li> </ul> <p>(例) One of my favorite school memories is the school festival. I enjoyed the music performance. I played the accordion. Do you know accordion? It was fun. I enjoyed many events. I made slime and I enjoyed haunted house with my friends. It was exciting. The school festival was fantastic!</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 思い出を伝えるために必要な表現</li> </ul> <p>My best memory is~. (思い出の行事や出来事) I enjoyed~. (経験したこと) It was~. (感想) Do you like~? (問いかけ) 等</p> <p>3 最も心に残る小学校の思い出がより相手に伝わるように、内容や表現を工夫して伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個人で表現づくり (スピーチメモ)</li> </ul> <p>スピーチメモの例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ the school camp</li> <li>・ enjoyed ハイキング</li> <li>・ fun</li> <li>・ Do you like~?</li> <li>・ made キーホルダー</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループ内での発表</li> </ul> <p>4 自分や仲間のスピーチをふりかえり、表現を練り直して、伝え合う。(★)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ スピーチのふりかえり (見直しと改善)</li> <li>○ 他グループの仲間へのスピーチ</li> <li>○ 代表の発表の視聴</li> </ul> <p>スピーチの例</p> <p>My best memory is the sports day. I enjoyed running. I like running. <u>Do you like running?</u> I enjoyed cheering with my friends. It was fun. <u>The sports day was wonderful!</u></p> <p>問いかけの表現も入れよう。 「友達」という表現も加えてみよう。 最後に感想を伝えよう。</p> <p>5 本時の学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習をふりかえる視点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工夫した表現</li> <li>・ 仲間のよかった表現</li> <li>・ 課題や今後の目標</li> </ul> </li> </ul>	<p>「自律的に学ぶ」ための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時のふりかえりを共有し、My Goal の達成に向けて、自分のスピーチに必要なことを問うことで、より相手に思い出が伝わるような表現の工夫の必要性に気付くことができるようにする。</li> <li>○ 問いかけや感想等の様々な既習表現を取り入れたスモールトークを教師が行い、聞き取れた表現を全体で共有することで、気付いた表現の工夫を言語活動に生かすことができるようにする。</li> <li>○ いくつかの学校行事等を取り上げた思い出トークの場を設定することで、仲間と様々な出来事や感想を伝える表現を考え、スピーチの内容や表現の幅を広げることができるようにする。</li> <li>○ 掲示物や学習支援アプリで、既習の語句や表現のカードを準備することで、伝えたいことと言語材料を結び付けて表現を選択・決定し、スピーチメモを基に、思いや考えを伝えることができるようにする。</li> <li>○ 表現に悩んでいる場合は、絵カードから、伝えたいことに近い表現や伝えられそうな表現はどれかを問うことで、言語材料を生かして思いや考えを表現し、伝えようとするようにする。</li> <li>○ 以下の視点を共有し、グループで互いのスピーチをふりかえる時間を設定することで、互いの表現のよさを認め合ったり、助言し合ったりし、自分や仲間の表現を練り直すことができるようにする。</li> </ul> <p>ふりかえりの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手に伝わる表現か。</li> <li>・ 内容や表現の工夫はあるか (問いかけ、感想等)。</li> <li>・ コミュニケーションのポイントを意識できたか (伝わる声、アイコンタクト、表情、ジェスチャー)。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他グループの仲間に向けてスピーチをする場を設定することで、練り直した表現が相手に伝わるかどうかを試したり、新たな気付きを得て、次時につなげたりすることができるようにする。</li> <li>○ 学習をふりかえる視点を与え、本時の学習のふりかえりを仲間と共有する場を設けることで、自分や仲間の表現の高まりを実感したり、次時のめあてへとつなげたりすることができるようにする。</li> </ul>

### 3 本時の評価規準

最も心に残る小学校の思い出が相手により伝わるように、伝える内容や表現を工夫し、思い出の行事や出来事、経験したこと、感想等の自分の思いや考えを話している。 (思考・判断・表現)【発言分析・記述分析】

### 4 板書



### 5 指導講評

宮崎県教育庁 義務教育課 荒木 光司 指導主事

- 授業の見通しをもたせるために、本時の目標や単元ゴールをしっかりと意識させていた。My goalの達成のために、何が必要であるのかを子どもに考えさせていた。自分の力で表現づくりができるように、掲示物や学習支援アプリを活用して、既習の語句や表現を提示していた。また、習った表現のなかから自分の言いたいことに近い表現を選択させて伝えることができる工夫が見られた。
- 終末のふりかえりにおいて、ある子どもが「私の課題をグループでの交流で解決できた。」と記入していた。言語活動のなかのふりかえりでグループの仲間と互いの表現を練り直す場面を設定したことで、子どもに表現の高まりを実感させることができたのではないかと考える。教師に頼らずに、子どもが仲間とともに学び合い、表現を高め合おうとする姿が見られたのではないかとと思う。
- 外国語を学ぶ目的は、異なる国の文化、言語をもつ人々とよい関係を築き、自分の世界を広げていくことだと考える。目の前にいる相手は、互いにより関係を築いていく仲間であるという意識をもたせて学びに向かわせることが大切である。そのため、教室を安心感のある雰囲気にし、仲間と信頼関係を築く場であることを子どもに実感させていく必要がある。
- 相手の間違いを探すのではなく、相手の言いたいことを理解し、自分の意志を伝える力を身に付けさせるための指導を今後も続けていきたい。
- 習った英語をただ発するのではなく、発する英語に自分の気持ちをのせて相手に伝えることができるような言語活動を積み重ねてほしい。

### 6 考察

- 教室の掲示物や学習支援アプリを活用した語句や表現のカードを基に、スピーチメモを作成させ、言語活動へつなげることで、スピーチに必要な語句や表現を自ら選択・決定し、思いや考えを工夫して伝え合う姿が見られた。
- 言語活動のなかのふりかえりで、グループの仲間と互いの表現を練り直す場面を設定したことで、仲間の助言を受け入れ、表現をよりよいものにしていこうとする子どもの姿が見られ、表現の高まりを実感させることができた。
- ふりかえりの視点においては、表現の幅を広げることだけに目を向けるのではなく、単元ゴールに立ち返り、目的に沿った視点を子どもにもたせることで、誰に、何のために伝えるのかという相手意識や目的意識をもち、より相手に伝わるように表現を工夫する姿が見られるのではないかと考える。